

平成30年度8月11日

「第8回フォーラムin JMER」
共生社会の実現のために今
何ができるのかII
～地域の共生社会をデザインする
多職種連携

**梅田小学校における
特別支援教育の実践**

葛飾区立梅田小学校長
阿部謙策

- 葛飾区の人口(平成30年度) 約46万人

小学校	49校
小学生	約 20500人
中学校	24校
中学生	約 8500人

1 はじめに

共生社会の実現に向け今何ができるか

- 学校現場では
- 様々な教育課題があるなかで
 - 人権教育
 - 道徳教育
 - 特別支援教育
 - などなど

梅田小学校の地域

- 葛飾区の中心あたりにある学校。
(区役所の近くにある。)
- 下町情緒あふれる街。
- 昔からある商店街、町工場、住宅街
の中にある学校。

2. 本校における特別支援教育 の実践(経営の柱に据えて)

- 1) 梅田小学校の紹介
- 2) 梅田小学校の実践事例
- 3) 特別支援教室(校内通級指導)
による指導

梅田小学校の構成

- 児童数:516名(平成30年5月)
 - ・1. 5. 6年生 各2学級
 - ・2~4年生 各3学級
- (特別支援学級<知的固定学級> 5学級 38名)
 - 6担任
 - 支援員 1日3名体制
- 教員数:24名

1) 通常の学級での実践

- ①実態の把握(アセスメント)と
支援の共通理解
- ②個別の支援計画と個別指導計画の作成
- ③環境の整備
 - ・基礎的環境整備
 - ・合理的配慮
- ④授業の改善
 - ・ユニバーサルデザインの
考え方を取り入れた授業の工夫)

校内委員会の役割

- ・児童の実態把握 (いろいろな面から)
- ・経過観察の報告
- ・支援会議、発達検査の依頼
- ・今後の支援、取り組みについての検討
- ・関係機関への連携

①実態の把握と支援方法の共通理解

児童の学びにくさの気づき
(校内委員会での検討)



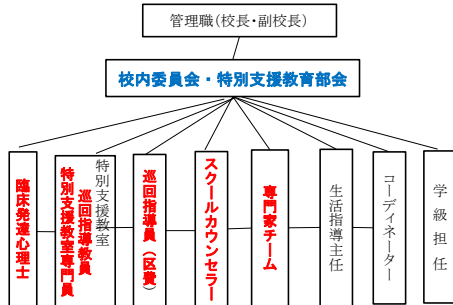
- ・保護者に伝え、家庭での様子の聞き取り
(保護者との面談)
- ・SC、心理士の助言や発達検査の実施

特別支援教育コーディネーター

校内で養護教諭、学級担任3名指名

- ・児童の実態把握のための授業観察
→生活指導全体会で支援の必要な児童を把握
↓
☆学校生活支援シート、個別指導計画の作成への支援
- ・支援が必要な児童へのアドバイス
- ・発達検査の依頼
- ・保護者との支援会議(年間100件以上)

校内支援組織 (外部人材含む)



関係機関との連携について

- 葛飾区総合教育センター(教育委員会)
 - ・教育相談
 - ・就学転学相談
 - ・専門家チーム派遣
 - ・発達検査
- 葛飾区こども総合センター
 - ・就学前相談
 - ・発達相談

- **よつぎ療育園(医療関係)、国立国府台病院(小児精神科等)**

- ・医療的見解
- ・発達相談、子育てについて
- ・服薬についての相談
- ・発達検査

- **都立水元特別支援学校(センター的機能)**

- **都立水元小小学園(肢体不自由部門)**

- ・副籍交流の実施
- ・指導や支援についてのアドバイス

その他の支援機関

- スクールカウンセラー
(週1回、児童及び保護者の相談)
- 専門家チーム
 - ・スクールソーシャルワーカー
(不登校児童家庭支援、養育困難家庭支援)
 - ・特別支援学校教諭、教育経験者

- **巡回臨床発達心理士**

(年間各学校6回～12回来校)

- ・児童観察、担任へのアドバイス
- ・校内研修会講師
- ・校内支援委員会の助言
- ・保護者面接

②個別の教育支援計画と個別指導計画の作成

保護者、担任、巡回指導教員、コーディネータが連携

学校生活支援シートの作成 (保護者記入)

①個別の教育支援計画、個別指導計画作成のための基礎資料

・診断名、服薬、学校生活への願い、本人の困難さや困っていること、支援してほしい事項
・就学前の様子や支援の有無、発達検査結果、家庭での様子、現在行っている家庭での支援、主な支援機関先

- **放課後等デイサービス**

区内10か所の事業所より

特別支援学級児童(約20名)
通常の学級の児童(5, 6名)活用

自立活動アプローチシートの活用

(担任記入)・・・子供のつまずきに焦点を当てて

児童の障害の状態、発達や経験の程度、興味関心
学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題などについて情報収集する。



自立活動の6区分、27項目の内容を、具体的な事例として一覧表に例示し、担任がその中から、児童の様子を見ながら課題を選択する。

- 学校生活支援シート(保護者記入)
- +
- 自立活動アプローチシート(担任)



個別の教育支援計画と
個別指導計画の作成

- ※ 指導の一貫性と共通理解のツールとする
- ※ 支援のPDCAをまわす

焦点化

- ・明確なめあての提示
- ・導入の工夫
- ・教材のしかけ

③ 環境の整備
(基礎的環境整備)

④ 授業の改善 (ユニバーサルデザインの
視点を取り入れた授業づくり)

視覚化

- ・ICTの活用
- ・板書の工夫
- ・ワークシートやヒントカード
の活用

授業改善の視点

- 1 単元の目的意識
- 2 焦点化 視覚化 共有化
- 3 環境づくり・わかりやすい説明

共有化

- ・ペア学習やグループ学習
- ・話型の提示
- ・動作化

授業の環境づくり

- ・集中できる環境
- ・見て分かる環境
- ・参加意欲を高める単元

本校の特別支援学級(知的障害)の現状

- ・1年生から6年生まで、38名在籍
(1年4人、2年3人、3年10人、4年7人、5年8人、6年6人)
- ・通常の学級からの転入児童が多く、毎年数人、本校や近隣小学校より転校してきている。
- ・発達段階の差が大きく、知的の遅れの軽度の児童から、IQ50以下の支援学校判定の児童まで差が大きい。

わかりやすい説明

- ・スタートを揃える
- ・一指示一動作
- ・指示は具体的に

- ・単純知的障害、自閉症、心臓疾患、軟骨無形成など多様な障害種別
- ・軽度の児童の保護者の中には通常の学級での教科の学びの機会を強く求める保護者もいる。
- ・通常級の児童は行事や、クラブ活動、委員会活動など自然に関わっている。
- ・通常学級の担任の受け入れ態勢がある。

2) 梅田小学校の実践事例

(1) 通常の学級での実践

(2) 特別支援学級(固定)の 交流及び共同学習の実践

具体的な交流及び共同学習場面

- ・クラブ活動、委員会活動、その他学年行事には、当該学年に参加する。
- ・年間を通じて、相互で給食の交流を実施。
- ・可能な教科や単元に参加(基本的には、生活科や実技教科が多い)
- ・学年ごとに特別支援学級との交流計画を企画し実施。

各学年の交流及び共同学習の例

- 1年 トウモロコシ、そら豆皮むき(生活科)
どんぐり拾いとどんぐり工作(生活科)
- 2年 おもちゃ作り(図工)
- 3年 キックベースボール (体育)
自転車乗り方、交通安全教室
理科(単元により) 1名参加
- 4年 水道キャラバンの体験授業
打ち水体験
- 5年、6年 南中ソーラン節(体育)
リコーダー教室、壁画アートづくり(図工)

※その他 各学年で特活的な活動を企画して実施。

特別支援教室(スマイル教室)とは

在籍学級の学習に概ね参加できるが、集団での活動、感情のコントロール、友だちとの関わり方等に困難さを感じている児童生徒に、**巡回指導教員が、巡回して支援の必要な児童、生徒に対してを個別に指導を行う教室。**
(現在は週に2時間程度 取り出しをして指導を行う)

発達障害の可能性のある児童(高機能自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害[ADHD]、学習障害[LD]など**知的に遅れない児童**)が対象。

交流及び共同学習で大事にしたいこと

- 障害のある児童と障害のない児童ができるかぎり、ふれあい共に活動する機会を充実していく。
- 単に場を共有するだけでなく、それぞれの教育課程のねらいが達成されるように留意する。
- 日常的に、「心のバリアフリー」は達成できるように、教職員、保護者、児童、地域などに意図的に、情報発信を続ける。

- 本校では、**38人の児童に対して10人の巡回指導教員**(拠点校の川端小学校より、週当たり2日)が、本校に巡回して指導に当たっている。
- 他にも、週4日間、**特別支援教室専門員**が、教材作成、準備、記録等、児童の支援にあたる。

3) 特別支援教室(校内通級指導)による指導

H28年度から葛飾区全部の小学校に、H30年度から全中学校に特別支援教室を設置。

在籍児童生徒数(H30年度)
小学校(49校) 769人
中学校(24校) 152人

巡回指導拠点校
小学校(7校) 平成31年度に4校増設
中学校(4校)

子供が動くから教師が動くへ

その他、非常勤巡回指導員による指導 (ひまわり教室)

◎区費の非常勤巡回指導員が、年間30日ほど来校し個別の指導を行う。

◎特別支援教室の対象にならない(軽度の知的遅れのある)児童への取り出しの支援を行う。

H30年度は 7名が、指導を受けている。

3、おわりに(共生社会の実現に向けて)

- ・管理職自らが、経営の柱に特別支援教育を据え、リーダーシップを発揮して推進する。
- ・ニーズに応えられるように、専門性を高める。
(特に特別支援学級担任やコーディネーター)
- ・すべての教員が特別支援教育の視点に立った指導を定着する。
- ・心のバリアフリーを推進する。(児童生徒、保護者、地域への啓発を進める。)
- ・学校だけで抱えず、様々な資源を活用する。

